



平成 26 年 10 月 23 日

各 位

会 社 名 株式会社アイロムホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 森 豊隆
(コード番号 2372 東証第一部)
問 合 せ 先
役 職 取締役 社長室長
氏 名 谷田 洋平
電 話 03-3264-3148

当社子会社による京都大学 iPS 細胞研究所との創薬研究用 疾患標的細胞への分化誘導法研究に関する共同研究契約締結のお知らせ

京都大学 iPS 細胞研究所(所在地:京都市、所長:山中 伸弥、以下、「CiRA」)と、当社の 100%子会社であるディナベック株式会社(本社:つくば市、代表取締役会長:森 豊隆、以下、「ディナベック」)は、ディナベックが所有するセンダイウイルスベクター(※1)を用いて、iPS 細胞(※2)から簡便に、創薬研究用疾患標的細胞を分化誘導する方法を開発する共同研究契約を本日締結しましたのでお知らせします。

本共同研究では、ディナベックは iPS 細胞からの分化誘導に必要な転写因子を搭載したセンダイウイルスベクターを作製し、またそのために必要なベクター改良を行います。CiRA はこれまでの分化誘導法の知見をもとに、患者 iPS 細胞から疾患標的細胞へ、センダイウイルスベクターに搭載した転写因子等を用いた分化誘導を行いません。本共同研究により開発されたセンダイウイルスベクターを用いた疾患標的細胞への分化誘導法は、疾患解析や創薬研究等の研究基盤の確立を目的とする公的プログラムである「疾患特異的 iPS 細胞を活用した難病研究」(※3)で用いられることが検討される予定です。

このたびの CiRA における分化誘導方法の開発にディナベックが共同で取り組むことにより、創薬研究を行なうための疾患標的細胞への分化誘導方法がセンダイウイルスベクターを用いてより簡便な方法として確立され、根本的治療薬のない希少疾患や難治性疾患に対する治療薬の開発の促進に繋がることが期待されます。

※1. センダイウイルスベクター

治療用の遺伝子を特定の臓器・組織に運搬し、効果的に標的細胞内へ導入する働きを持つ物質のことで、その中でも、ディナベックが独自に開発した「センダイウイルスベクター」は、従来のベクターとは全く概念が異なる RNA を骨格とするもので、臨床研究や動物実験を通じ安全性の高さが確認されている他、遺伝子医薬品やバイオ製品分野での利用に高い信頼性と実績を有しています。

※2. iPS 細胞:人工多能性幹細胞 (induced pluripotent stem cell)

人間の皮膚などの体細胞に、核初期化因子と呼ばれる少数の因子を導入し、培養することによって得られる多能性幹細胞です。様々な組織や臓器の細胞に分化する能力とほぼ無限に増殖する能力を持ち、CiRAを中心に世界中で創薬や再生医療への応用の研究・開発が行われています。

※3. 疾患特異的 iPS 細胞を活用した難病研究

「疾患特異的 iPS 細胞を活用した難病研究」は厚生労働省と文部科学省が共同で推進する公的プログラムであり、iPS 細胞から分化誘導された細胞を用いて、例えば神経難病、神経内分泌難病および視覚系難病等の領域において基礎研究から実用化研究まで一貫した研究体制を構築し、創薬の候補となる物質のスクリーニングを行う等治療法の開発研究を進めることを目的としています。さらに、こうしたプラットフォームを国内の創薬系の企業での開発研究にも広げ、難病・稀少疾患に対する治療薬の開発を大幅に加速することを目指しています。

2. ディナベックの概要

(1) 商号	ディナベック株式会社
(2) 主な事業内容	遺伝子医薬品、細胞・再生医療、 バイオ製品の研究開発と販売等
(3) 設立年月日	平成 15 年9月5日
(4) 本店所在地	茨城県つくば市大久保6番
(5) 代表者	代表取締役会長 森 豊隆

3. 業績に与える影響

本契約締結が業績に与える影響は軽微であり、当期の業績予想に変更はありませんが、変更が生じる場合は、速やかにお知らせいたします。

以上